

大熊長次郎 おほくま ちやうじろう 歌人。明治二十四年六月七日東京生れ、昭和八年一月一日歿（一九〇一—二三）。筆名青江沙婆九郎、青江沙婆吉。高等小學校卒業後家業（米穀商）手伝、印刷局校正係、水政會事務員など。大正七年小林登吾等と泥像短歌會を興し、歌誌「ウアラギ」、次ついでこ「こねりこ」の會員となる。翌年雑誌「人間派」（九年「燎原」と改題）創刊。古泉千樫の節事し、十三年千樫と共に「白光」に参加。昭和二年橋本徳壽等と「青垣」を創刊、編輯を當る。四年教育家加藤三吾の次女、歌人水上小ヅ子と結婚。のち痴苦の果て睡眠薬自殺。編著書、都築爲世遺著・歌集「寂日唱」（編、大正十二年九月、二十日寂日唱發行所）、歌集「蕪奢待」（大正十四年四月五日蕪奢待發行所）、口小林登吾「歌集」（編、大正十四年九月、二十日燎原短歌會「燎原叢書」）、大木良歌集「冬木の丘」（編、昭和二年十一月一日泰成詩社「とねりこ叢書」）、古泉千樫歌集「崖下の土」（編、昭和二年五月二日改造社）、都築甚之助歌集「松の木」（編、昭和四年四月十五日青垣發行所）、古泉千樫著「隨縁鈔」（編、昭和五年二月十五日改造社）、口晚縁記（人と歌叢書）（古泉千樫篇）（昭和六年十月十五日白帝書房）、歌集「真木」（昭和七年一月一日橋書院「青垣叢書」）、古泉千樫歌集「青牛集」（編、昭和八年二月十七日改造社）、口大熊長次郎歌集（橋本徳壽編、昭和八年八月十四日改造社）等。

